

島根県 大田市立湯里小学校 5・6年生

【こんなに広がる「凜々子」ワールド】 ～各教科との連携、地域とのつながり～

■ 実践のきっかけ：

収穫の楽しみもあり、子どもたちも意欲的に栽培活動をするが、栽培だけでは高学年には物足りないと考えた。そこで、理科の比較観察、国語、総合的な学習の時間での地域素材をいかした学習と連携を図り、広がりを持った活動を設計した。

■ 実践概要：

1) 「凜々子」を学習素材として、広がり、深まり、発信できるものしたいと考え、総合的な学習の時間を中心に、国語の書くこと、社会科のわが国の産業と国民生活、算数の数量関係グラフの活用、理科の生物とその環境、家庭科の日常の食事等との連携を図り、単元構成を考えて、計画的に学習を進めていくことにした。

年間指導計画を元に、大まかに全体像のわかる計画表を用意し、子どもたちの思いを大切に、変更を加えながら活動を行なった。

2) 栽培時、水の量の違い、わき芽を取る・取らない、声をかける、ビタミンC・塩水を与える等、一人ずつテーマを決めて「凜々子」の比較観察を行った。

「トマト」っていいな Only 1 研究

研究テーマ		わき芽を取らないとどうなるか														
開始日		はじめ	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50				
葉の枚数	わき芽取る	12.5	15	16	19	20.5	21.0	22.7	23.8	25	26	27.7				
	取らない	13	14	14.5	15.7	16.5	17.2	18.3	19	20.1	21.1	22.0				
葉の長さ	わき芽取る	21	31	42	53	63	73	83	93	103	113	123				
	取らない	25	34	40	48	56	64	72	80	88	96	104				
葉の色	わき芽取る	5	6	8	5	5	5	5	5	5	7	7	7			
	取らない	6	5	6	6	6	5	5	6	6	7	7	7			
葉の厚	わき芽取る											4				
	取らない											0				
運動でから		65	60	65	70	75	82	87	93	98	100	105				
高さ	わき芽取る	22	22.2	40	43.2	46.7	41	25	30	28						
	取らない	37	38.3	28.5	40	40.3	40.8	25	47	44						
葉の面積	わき芽取る	222	229	249	282	276	205	153	77	79						
	取らない	221	230	250	203	272	292	163	171	260						
葉の重	わき芽取る	7	7	7	7	7	7	3	ちいさい	ちいさい						
	取らない	7	7	7	7	7	7	7	6	6						
葉の枚	わき芽取る	4	5	6	6	7	7	3	3	3						
	取らない	5	5	5	4	4	3	2	0	0						

3) 地域の特産物（米、葛、柿、わかめ）を使ったお弁当づくりを企画し、その中に自分で育てた凜々子を使った料理を入れることにした。地域講師を招いて、メニュー作りを行い、お弁当作りの日は、「『湯里の宝』特別お弁当会」と題して、地域の方と全校児童合わせて62名分のお弁当を作り、交流食事会を実施した。

4) 学習発表会でこれまでの活動を劇にして発信した。



■ 実践によって得られた成果：

- 比較観察によって、意欲的に栽培に関わり、生長の違いをとらえて理由を考えることができるようになった。また、毎日観察日記を書くことで、書く力がついた。
- お弁当作りでは地域の人と関わり、料理名人と一緒に取り組むことができた。また、学習発表会で、凧々子を地域の宝のひとつとして紹介し、自分たちの活動の様子を多くの人に発信することができた。

■ モグモからのメッセージ：



高学年らしく、広がり、深まり、発信できた素晴らしい取り組みだね！凧々子だけでなく、地域の特産物や、さまざまな教科と連携したことで、単なる栽培・観察でなく、「食」への学習に発展できたんだね。そして、「凧々子わくわくネットワーク」に随時報告してくれてありがとう！先生のレポートのおかげで、湯里小の「凧々子」の様子が、一年を通してよ〜く伝わってきたよ。

- ・ 比較観察 <http://www.c-player.com/ac67194/message/20070618>
- ・ 献立作り <http://www.c-player.com/ac67194/message/20071018>
- ・ お弁当作り <http://www.c-player.com/ac67194/message/20071106>
- ・ 完成「湯里の宝」特別試食会 <http://www.c-player.com/ac67193/message/20080307>



<実践のきっかけ>

●野菜の栽培活動は収穫の楽しみもあり、児童も意欲的に活動するが、栽培だけでは高学年には物足りない。そこで、理科の比較観察、国語の書く力など各教科での学習と、総合的な学習の時間での地域素材をいかした学習とで連携を図り、広がりをもった活動を設計した。

<実践の概要と流れ>

年間の流れ	実践概要	
比較栽培で、観察しよう！	●全員が自分で比較栽培のテーマを決めて、 毎朝の観察記録 を行い、それらをまとめて分析レポートを作成した(実践アイデア①)	【国語】書く力 【理科】観察の視点 【算数】数量関係グラフの活用
(実践アイデア②) ひとつにしたい！「湯里の宝」 ～ふれる～	●地域の宝(特産物)を主体的に考え、見つけ、それらをいかしたお弁当作りを企画し、地域の人と一緒に献立を考え ●全校児童と地域の方を招いて、オリジナル弁当の試食会を行ない、交流を図った	【社会】わたしたちの生活と食糧生産 【家庭】日常の食事について 【学活(食育)】日本の伝統的な食事 【国語】ポスターセッション・構成を工夫して書く
もっと知りたい！「湯里の宝」 ～つかむ～	●お弁当会で出た課題から、自分で問題点を見つけ、調べたり、地域の方に聞いたりしながら解決し、主体的に考えを深めた	【家庭】食の安全を知る 【社会】わたしたちの生活と食糧生産 わたしたちの生活と情報
もっと伝えたい！「湯里の宝」 ～いやす～	●これまでに学んだ湯里の宝をたくさんの人に伝えようと、学習発表会で劇にまとめたり、壁新聞にまとめてコンクールで発表したり、CMづくりを行ったりした。 ●「完成！『湯里の宝』弁当特別試食会」を行ない、これまでの活動の報告を行った	【国語】題材や表現に注意して、構成を工夫して書く

実践アイデア① 比較栽培の観察記録と、分析レポートの作成で、「書く力」の向上！

1人2苗を植え、「凜々子」の**比較観察を、毎日行なった**。土の量を変える、雑草を抜く・抜かない、息をふきかける、ビタミンCや塩水を与える等、各自が決めたテーマに沿って、9月中旬まで、毎日、観察記録をつけた。児童は結果を予測した上で、葉の枚数、色、高さ、実の数等を数値で記すとともに、気づいたことを文章で記録していった。まとめとして、観察結果をコンピューターでグラフ化し、要因分析を行い、文章にまとめた(Webサイトでご覧いただけます)。これらの活動を通して、深い観察力と、文章を書く力が身についた。

児童の作品より
土の量による生長の違い
トマトを育てた結果、土の多い方が良いことに気づきました。高さを比べると多い方は40センチ、少ない方は24センチと、約2倍も違いました。葉の数は多い方は130、少ない方は21で約6倍になっていてびっくりしました。

実践アイデア② 地域の特産物を使ったお弁当作りで、地域との深い連携！

地域の特産物(米、葛、柿、わかめ)を知り、これらを使ったお弁当づくりを企画、自分で育てた「凜々子」を使った料理も入れることにした。地域講師を招いてメニュー作りを行い、「『湯里の宝』特別お弁当会」と題して、地域の方と全校児童計62名分のお弁当を作って交流試食会を実施した。試食会でのアンケートから児童が課題を見つけ、より完成度の高い「湯里の宝弁当」を作ろうと意欲を持った。そのためには、「食」や「湯里」地域についてもっと調べようと、地域の人に話を聞いたことで、深い連携が図れた。さらに、湯里の宝をもっと多くの人に知って欲しいという気持ちも芽生え、さまざまな発表機会を持ち、多くの人たちに発信した。2008年2月には本活動の総まとめとして、完成版「湯里の宝」弁当作りと、多くの地域の方への報告を行った。



<実践の成果・先生の声>

- 各自が決めたテーマで、毎日の比較観察によって、意欲的に栽培に関わり、生長の細かな違いをとらえて、理由を考え、自分の言葉で書くことができるようになった。毎朝、登校後まっすぐに「凜々子」に向かう姿勢が印象的だった。
- お弁当作りでは地域の人との関わりの中から、人の話を聞き、自分の言葉で話すことができるようになった。地域の方から「これ、何のトマト？」と声をかけられたことは、子どもたちの励みになったようだ。
- この活動を通して、人や物を大切に思う気持ちが育ち、湯里の人たちが特産物や伝統をなぜ大切にするのかについても理解が深まった。